



前進

第14号

2月26日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎新型コロナウイルス感染防止に向けて

2月に入り、新型コロナウイルスへの感染が広がっています。全国的には感染のピークを越えたという意見もあるようですが、なかなか感染者数が減少しません。保護者の皆様も、職場やご家庭でかなり気を遣っておられることと思います。

佐敷小学校でも複数のクラスで学級閉鎖や出席停止の措置を行っており、毎日予断を許さない状態です。全校あるいは関係学級への連絡を「連絡メール2」で行っています。今後とも学校からのメールについてはその都度確認いただくよう、よろしくお願い致します。

さて休校や学級閉鎖等の際、子供は自宅待機で、かつ担任が学校に勤務できている場合に、プリントによる学習だけでなく家庭でもある程度の授業を行えるよう、オンライン授業に取り組んでいます。右の写真のように、学校のパソコンと子供用のタブレットをネットワークで結び、画面越しに子供たちとやりとりをしながら授業を行っています。

授業を受けた子供たちからは、「いつもの家庭学習とちがって楽しかった。」「質問できるので、安心して学習できた。」といった好意的な意見が聞かれました。授業した先生方からも、「子供たちの表情を確認できる。」「反応が返ってくるので双方向での指導がしやすい。」といった声がありました。実際にロイノートというアプリを使用して連絡事項を伝えたり学習の進み具合を確認したり、使い方を工夫することで教育的効果が高まるように感じます。

ご家庭にWI-FI等のネットワーク環境がなければオンラインの授業ができず、いろいろとご負担をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご理解・ご協力をよ



ろしくお願いします。

◎こちらにもオンラインですが・・・交流を行いました。

2月8日(火)に2年生が、2月10日(木)に3・4年生が希望・未来・水俣の皆さんとオンラインでの交流を行いました。

クイズでの自己紹介、質問コーナー、「うみ」の合唱、新聞紙を使ったエコバッグの作成など、画面越しではありましたが、楽しそうに交流していました。



水俣病に関する詳細な学習は、5年生になってから「水俣に学ぶ肥後っ子教室」で行いますが、低学年から徐々に学びを深めていくことは大切なことです。今回の交流も子供たちにとって貴重な経験になったと思います。

また、2月24日(木)には、水俣ダイビングサービス SEAHORSE 代表の森下誠さんに来校いただき、6年生に現在の水俣の海の様子や、自然豊かな水俣の海を世界へ発信している思い等を話していただきました。一般に見られる水俣の海へのイメージを変えたいという森下さんの強い意志と、アイデア豊かな実践力に、キャリア教育の視点からも子供たちは大きな刺激を受けたと思います。

◎交通事故の「ジ・エンド」を目指して

熊日新聞にも記事が載っていただけましたのでご覧になった方も多いかと思いますが、2月15日(火)に、芦北警察署・芦北町防犯協会・芦北地区交通安全協会主催で、芦北地区の安全を守るヒーロー「犯罪 Z-END (ジ・エンド)」が来校し、20名ほどの1年生と途中まで一緒に下校しました。1年生は、最初は戸惑っていた様子もみられましたが、後からはすっかりと慣れ、頼もしいヒーローに笑顔で手を振りながら下校しました。



【校長室から】新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、様々な学校行事が中止や変更になったり、来校者を制限したりするなど、急な対応に追われた2月でした。残り1カ月、現在の子供たちが自分の成長を自覚し、達成感をもって進級・進学できるよう、職員みんなでまとめにしっかりと取り組みます。保護者の皆様におかれましては、子供たちの体調管理や適切な生活リズムの確立に最大限の配慮をお願いします。